

# 八重山語波照間島方言の格ととりたて

金田章宏（千葉大学）

## 1 はじめに

金田（2020b）では与格相当の格語形の形態と意味用法について概要をのべた。ここでは与格以外の格とおもなとりたて形およびその周辺の概要についてのべたい。

▽本稿の表記について

・母音の無声化を！でしめす。アクセントとイントネーションを区別せずに、上昇を[で、下降を]でしめす。また、二重母音を<>でしめす。

ke:]ru p!itu mo:[nu]d<o[a>. こんな人はいないよ。

・撥音を N で、促音を q でしめす。促音は半拍程度であらわれることが多いが、それを区別しない。

maN]taba[ri]bagja buq]taN. さっきまでは いた。

・琉球諸語にみられる強調辞 du は撥音 N のあとでは du で、母音のあとでは ru であらわれる。

▽話者について

この資料に使用したデータの話者は南集落の阿利盛八（アリ セイハチ）氏(1934.1.20 生 M)である。

## 2. 格

波照間方言の格形式には、ハダカ格、nu 格、ba 格、na 格、ga 格、ci 格、mu 格、gaci 格、naga 格、nja 格、si 格、nagi 格、tu 格、gara 格、bagi 格、nami 格、bagisi 格、namisi 格がみられる。

このうち与格相当の意味をあらわすものとして、ハダカ格（の一部）、na 格、ga 格、ci 格、mu 格、gaci 格、naga 格、nja 格については金田（2020b）でとりあげた。ここではそれ以外の格の意味用法についてのべる。

### 2. 1 ハダカ格

#### 2. 1. 1 主語になる

文の主語は、強調辞 du(または ru)がつかないばあいは、基本的にハダカ格が使用される。

・主節の主語になる

ba:] waqkiruN.私が追い払う。

unu p!i]tu [hoN]te e[go:.あの人、食べようとしている。

ami ffja]ru jo:[si.雨が降ったようだ。濡れているのを見て。  
 ki: to:rigi[sja]sjaha[daru.木が倒れそうだ。  
 k!uri aqcaha[is!i]ta.これ、厚い！  
 snamunu ne:[na:]s!ita [ma:.もう品物がない！店で。発見表出  
 e:ru] p!itu mo:[nu.あんな人はいない。  
 [k!uri ubi siba:.これはいくらですか？値段  
 agaN] ne:[nu]=d<o[a>.サツマイモはないよ。  
 s!ikeN Nda]N.月が出た。  
 na:] gu[saN] ne:[nu.そこには杖がない。

- ・従属節などの主語になる

da: [en<i]a>ru muna: [aqtarjaN.君の言っていることは正しい。  
 Nga[s<ua>:] zi[N] ne:[naki piNso:]=jaqtaN.むかしはお金がなくて貧乏だった。

## 2. 1. 2 直接補語になる

- ・はたらきかけをうける対象

nama[ki] mehe[ki] k!ipuha[daru.生木を燃やしたから、けむい。  
 p!isimarimu[nu] hja[:]na? お昼食べたかい？  
 [a:sa t!uri ku=ba.アオサをとってこい。

- ・再帰的な動作の対象

[h!akoci ucjataru.顎を打った。  
 unup!i]tu [asta=ru h!umja]ro:.あの人、下駄をゾはいている。

- ・つくりだす対象

e: h!aki birja]ru.絵を描いている。  
 sunumunu skurjataN.酢の物を作った。

- ・知覚認識活動の対象

numiN[cana [terebi] miru[na.飲みながらテレビを見るな。

- ・心がむかかっていく対象

k!unu uq[tama:] p!itu go[haq]taru e[gu.この子は人を怖そうにしている。こわがっている。  
 agaqtama: ci: muitaha] si bi[rja]=wa.赤ちゃんがオッパイを欲しがっている。

- ・ 具体的内容＋スル

nau[bī] s!ina. あくびするな。

### 2. 1. 3 ときの状況語になる

snu [ha=na aqta]=d<o[a>.きのうあそこにあったよ。  
 aqca] hi=[na bu]na? > buN=d<o[a>.あした家にいる? > いるよ。  
 jo[ru p!ituri=si arugu mun<u]a] [gohadaru.夜一人で歩くのは怖い。  
 mana] NguN.いま行く。  
 manabi kjaq]ta.さっき来た。  
 nudu=nu k!ari basju mizu numu.のどが渴いたとき水を飲む。状況語節

### 2. 1. 4 程度の修飾語になる

u:]cī [aba]:? いくつある?  
 p!ana:] gas[ta ke:sjahadaru.花はみんなきれいだ。

### 2. 1. 5 よびかけの独立語になる

k!ituN] na=[ga ori.みなさん、ここにいらっしやい。  
 da: [mo=ga ku:.あなた、ここに来い。

### 2. 1. 6 規定語になる

- ・ 人称代名詞

i:ja=N=du ko:raqta]ru [razio] ba: ututu=[ga] naNgis[maru.父が壊れたラジオを私の弟に捨てさせた。  
 da: i:buN=[du] waqsa[haru.あなたの話し方が悪い。  
 da: muq[cja] agahadaru.あなたの顔赤いよ。  
 na: ne:]rik!ata=na a[u] =wa.そこの右側にあるよ。

「私の家」は一語化して「我が家」のようになっている。

ba=hi]=gaci [ku]=jo[:.私の家に来い。

- ・ 人固有名詞

k!urja: [kajoko muN]d<o[a>.これはカヨ子のものだ。  
 sju:ici k!ucu]d<o[a>.これはシュウイチの靴だ。

・親族名詞

pa:] s!apaN.ばあさんのぞうりだ。  
 sjama] s!apaN.兄さんのぞうりだ。

## 2. 1. 7 述語用法

ハダカ形の述語用法は格の用法ではないが、参考までに例をあげておく。

k!urja: [kajoko s!apaN.これはカヨ子のぞうりだ。  
 k!urja: [mmaN=nu] pa:me.これは馬の餌だ。  
 ju: hja[N] mun<u=a> k!unu maju.魚を食べたのはこのネコだ。

## 2. 2 nu 格 主格・属格

### 2. 2. 1 主語になる

・主節の主語

主節主語に強調辞 du(または ru)がつくばあいは、ハダカ格ではなく nu 格で強調される。このとき、N 終わり名詞以外の、短母音終わりや長母音終わりの名詞では nu 格に du がつくが、nu は規則的に N にかわり～Ndu となる。

N 終わり名詞では、N+nu 格+du となるが、このとき nu が N に変化し NN となって縮約され N となるので、形態的には N 終わり名詞に du がついたようにみえる。類似の例は、paN (足全体) の連体格 paN=nu が panu になる、panu p!isa (くるぶしから下の全体。足のヒラに対応) にみられる。この例では連体を明示するために nu が保存され、N が脱落するが、主格の NN ではどちらが脱落したかはわからない。

これまでの例で、文の主語ではない、節の主語には強調辞はあらわれていない。

nu 格のみ

主語は基本的にハダカ格であられる。主語を明示する nu 格は du 強調のなかであられるのを基本とするが、わずかに nu 格だけの例もみられる。強調辞の有無による違いはわからない。

nudu=[nu kabaqki.喉が渴いた！  
 aqca: uqtama=nu] muqci [ku:.あした子どもが持ってくる。  
 kaNnari=nu [p!ucirja]ru.雷が光っている。  
 h!akoci=nu ja[mu.顎が痛い。

- ・二股述語の主語

fku=nu [spahaki] k!ucu[sahadaru.服が狭くてきつい。

- ・重文の先行節の主語

kj<o=a> kaci]=nu [susahaki] naN=[n<iu>N t!akahadaru.きょうは風が強くて、波も高い。

主格名詞の du 強調では、主格助辞の nu が N に変化して Ndu であらわれる。  
短母音

mizu=N=du [bagja]ru.水が湧いている。

guqcimi=N=[du] jamu.脇の下が痛い。

p!imiza=N=du Ngobi] bu.ヤギがたくさんいる。

長母音 V: nu du > V:Ndu (V は母音)

snu=nu [sa:=N=du aqcahaqtaru.きのうのお茶が熱かった。高い。

ututu=N=du sa:] muqci kjaru.弟がお茶を持ってきた。

zi:=N=du] t!ama[rja]ru.垢がたまっている。

長母音の短母音化 V: nu du > V:Ndu > VNdu

ba=N=[du e]nu.私 (ba:) が言う。

da=N=du] waqsaha[ru.あなた (da:) が悪い。

k!ur<i>=a> [ta=N]=du [si]ba? これはだれ (ta:) がするの？

N 終わり名詞のばあいは、N=nu=du の nu が N に変化し、NNdu が縮約して Ndu になる。

agaN=[du] as!ita.サツマイモがあった！発見表出

hoN munu=gara] ziN=[du fcaharu.食べ物よりお金が欲しい。

mi:N=[du aru.穴がある。穴があいている。

me:=[na na:] gusaN=du [aqtaru.まえはここに杖があった。

- ・従属節の主語

節の主語は nu 格であらわれるのが基本的である。これに du のついた例はこれまでのところ確認されない。

述語節の主語になる

k!unu uq[tama:] amaNskuru [su:]sa[haN.この子は頭がよい。頭が強い。

unu za: [arugu] munu nif[caharu.~nif[cahadaru.こいつは歩くのがおそい。  
da: s!ikubi]=nu [s!imikata] jura[hadaru.おまえは帯のしめ方がゆるい。

状況語節の主語になる。 原因理由

k!unu] ju=a [p!uni=nu busahaki/busahanu] he:miqkuha[daru.この魚は骨が多くてたべにくい。  
kuruma=nu] uqto=nu kaqca[mahanu/kaqca[mahaki cukuq]tu a[ranu.車の音がやかましくておち  
つけない。

fa:[ma:=nu ki:ki] ma:zi as!ipuqtaru.孫たちが来たから、一緒に遊んだ。  
buza[ma:] sigutu=nu [arikiru kuna]ru.おじさんは仕事があるから、来ない。  
siiguqtu owa[r<i>a>jogara [kaeribaN] mi[sjaN]=d<o[a>.仕事が終わったから、帰ってもよろし  
い・いい。条件節・状況語節

規定語節の主語になる。

uibuja=nu skurjaru] hi:=ja ma: jo:ri[da]=d<o[a> ma:..ひいおじいさんが作った家は弱っている  
よ。

s!ikeN=nu] ne[nu juru=a ffahadaru.月のない夜は暗い。  
p!itu]=nu [kunu] macija: [turaq]siru.客が来ない店はつぶれる。  
nudu=nu k!ari basju mizu numu.のどが渴いたとき水を飲む。

nu 格ではなく、短語末母音が長音化してあらわれることがあるが、nu 格からの変化かど  
うかは不明。

ija:] bagasu [su=a iqciN s!akorahadaru.お父さんがつくる味噌汁はいつもしょっぱい。  
uq[tama:] nuf[fjaru] ka[mi] ke:munu si: kjaru.子どもが寝ているうちに買い物をしてきた。  
nu[du:] k!a!ra: s!inigi[sja]sjadaru.喉が渴いて死にそうだ。私は。

## 2. 2. 2 規定語

連体機能をになうのはふつう名詞では nu 格、代名詞ではハダカ格である。人固有名詞で  
はハダカ格が基本だが、nu 格も使用される。

garasi=[nu] p!an<i=a> [huhaN.カラスの羽は黒い  
k!atana=nu] s!ak<i=a> p!ikoha[N]=d<o[a>.包丁の先はするどいよ。  
ba=hi]=nu [pa:] p!atamunuuri=na[ga] бага[ruN.うちの祖母は機織りにくわしい。  
[uwa=N=hi=nu k!atamuta: fcahadaru.豚小屋の近くは臭い。  
k!urja: agaN=[nu ka:..これはサツマ芋の皮だ。  
gusaN=[nu iru=a n:]]=nu i[ru]=ja:? 杖の色は何色?  
k!urja: [mmaN=nu] pa:me.これは馬の餌だ。  
sju:ici=nu k!ucu]d<o[a>.シュウイチの靴だ。

k!urja: [kajoko=nu s!apaN.これはカヨ子のぞうりだ。

### 2. 3 ba 格 対格

直接補語になる。対格の ba 形は、以下の条件で使用される。詳細については本冊の別稿を参照。

- ・対格のならべのさいごにあらわれやすいが、任意である。
- ・人名詞には使用されない。

### 2. 4 si 格 具格

間接補語になる。

- ・道具

pai=si [k!iruN.足で蹴る。

si:=si t!uri]=jo:.手で取れ。

poqci]=si [hakuN.箒で掃く。

k!unu] nabi=[si] mbusu]na:? この鍋で煮るの？

修飾語になる。

- ・移動手段

basu]=[si] NguN=d<o[a>.バスで行くよ。△～kara

amai]ma: [minatu=ga]ra [kuruma=si kuN.姉さんたちは港から車に来るんだ。

fni=si] NguN.船で行く。

- ・やりかた

pa:=N=du mbusana]cja be: ftari]=[si ma:]zi [mbusana]cja. おばあさんが煮ないなら、私たち二人で一緒に煮よう。

ju: da:] =N du:=[si] mbusi miri=ba. 魚をあなたも自分で煮てみる。

状況語になる。

- ・原因

snu f[fjaqta]ru a[mi=si] micī durudari[sja]ru.きのう降った雨で道がぬかるんでいる。

### 2. 5 nagi 格 所格

状況語になる。

inaga=[na]gi ujaqtaN.海で泳いだ。  
ina=[na]gi u[iko=se:].海で泳いで来よう。  
me:ga me:nici ffamu=bagi h!luka=nagi as!ipuN.毎日暗くなるまで外で遊ぶ。  
fni ku: kami] minatu=[nagi] ma:zi maq[ca:.船が来るまで港で待とう。  
hi=nagi skanahe birjaru maju=N=du ju:=ba hjataN.家で飼っているネコが魚を食べた。

## 2. 6 (q)tu 格 共格

間接補語になる。

- ・ あいて

mariqke=na mago=qtu aqtaruqtara sanisjahaN.ひさしぶりに孫に会えてうれしい。  
snu=a mago=qtu aqtariki sanisjahaqtaN.昨日は孫に会えてうれしかった。

- ・ いっしょにするなかま

k!unu uqtama=q[tu] as!ipiba.この子と遊べ。  
uq[tama=qtu] aspuqtaru.子どもと遊んだ。  
unu [mmaN=tu] as!ipi=ba.あの馬と遊べ。  
k!unu uq[tama=qtu=gara] as!ipi=ba.この子とから遊べ。順序

## 2. 7 (ga)ra 格 奪格

間接補語になる。

- ・ あいて

da:=gara: [t!u!ranu.あなたからはもらわない。  
da:=gara=N [t!u!ruN]=d<o[a>.あなたからももらう。

- ・ とりはずすところ

k!uri=ga[ra=N turi=ba.これからも取れ。  
nara=gara] t!u!ri=ba.ここから取れ。

状況語になる。

- ・ 時間

aqca=gara] sa:=[ra:.あしたからやろう。仕事を  
kj<o=a> s!itumuqci=gara pisjahadaru.今日は朝から寒い



mugasĩ=gara=nu p!ana[sĩ]=d<o[a>.むかしからの話だよ。むかしの言葉遣いだよ。

・空間

hi=ga[ra] gaqku=bag<i=a> [tu:sahaN.家から学校まではとおい。

aqca: [ama=N=du] to:kjo:=gara [kuq=cjo:./[kuN=do:.姉さんが東京から来る。

おもに指示代名詞で、gara ではなく ra になることがある。指示代名詞以外で確認されたのはこれまでのところ fcimeNta（台所）のみである。

[nara t!u!ri=ba.ここから取れ。

nara] mucu Ngi=ba.ここから持っていけ。

mora] muqci o=ba.ここから持っていらっしやい。

fcimeNta=ra] mucu ku:.台所から持ってこい。

## 2. 8 bagi 格 とどき格 1

状況語になる。

・時間

maN]taba[ri=bagi=a buq]taN.さっきまでは(ここに)いた。

saNzi]=bagi [na:] bu[rja]=ba. 3時までここにいる。

saNzi]=bagi [na:] bu[rja]ri. 3時までここにいる。

・空間

mo:]]=bagi [ku:.ここまで来い。

gaq[ku=ba]g<i=a> [tu:sahaN]=d<o[a>.学校までは遠いよ。

ja[kuba]=bag<i=a> [s!ikahaN]=d<o[a>.役場までは近いよ。

hi=ga[ra] gaqku=bag<i=a> [tu:sahaN.家から学校まではとおい。

## 2. 9 nami 格 とどき格 2

nami 格は bagi 格とおなじように時間や空間の状況語として使用される。格としての意味用法に関しては、これまでのところ bagi 格との違いは確認できていないが、マデに相当する bagi に日本語とおなじようにとりたでの用法があるのに対して、nami 格は格の用法のみのようである。また、nami 格について麻生（2020）ではふれられていないが、その理由が集落の違いによるものなのか、世代や性別の違いによるものなのかは未確認である。

状況語になる。

・時間

saNzi=nami na:] bu[rja]ri. 3時までここにいる。

・空間

gaqku=na[mi] a[rigi=ba.学校まで歩け。

hi:] =nami a[ruguN]=d<o[a>.家まで歩くよ。

gaq[ku=nam<i=[a>] tu:sa[haN]=d<o[a>.学校までは遠いよ。

上にしめた空間の用法はみな **bagi** 格でいえるが、つぎの例は、**bagi** 格でしかいえないようである。その理由が移動の方向なのか代名詞の種類なのか、あるいはそれ以外にあるのかは未確認である。

mo:] =bagi [ku:.ここまで来い。×nami

## 2. 10 bagi si 格 マデニ格相当 1

形のつくりとしては **bagi+si** であるが、それぞれの意味をあわせて **bagisi** 格の意味ができていないので、全体でひとつの格形式と認める。

状況語になる。

saNzi=ba]gi[si ku:. 3時までに来い。

saNzi]=bagisi [na=ga ku:. 3時まででここに来い。

astu]=bagi[si kaisi]=jo:.あしたまでに返すよ。

## 2. 11 namisi 格 マデニ格相当 2

形のつくりとしては **nami+si** であるが、それぞれの意味をあわせて **namisi** 格の意味ができていないので、全体でひとつの格形式と認める。

状況語になる。

[saNzi=namisi na=ga ku:. 3時まででここに来い。

### 3. とりたて

ここではおもなとりたて形、およびその周辺の概要についてのべたい。

#### 3. 1 du/ru

強調のズに対応する。N のあとでは du、それ以外では ru があらわれる。

- ・ N おわり名詞の主格語形

N おわり名詞では、Nnudu > NNdu > Ndu のように変化したとみられる。

ha=na mmaN=du] bu:.あそこに馬 (mmaN) がいる。

agaN=[du] as!ita.サツマイモ (agaN) があった！

- ・ 名詞の主格語形 nudu > Ndu

名詞の主格名詞につくばあい、名詞の nu 格に強調辞 du がつくが、そのとき nu は規則的に N に変化して Ndu というかたちになる。

ha=na] nu:=N=[du aba]:? そこになにがズあるの？

snu=a [na:] =N nu:=N=[du aqtara]:? きのはここになにがズあったの？

kj<o=a>] ta=N=du [kjaq]taru? きょうはだれがズ来たか？

- ・ 母音おわり名詞

ハダカ格であらわれる名詞の対格や与格などのうち、母音おわりの名詞には du が ru に変化してつく。

k!u]!r<i=a> [ko:si=ru mucja]ro:.これは、菓子<sub>を</sub>ズ持っている。

unup!i]tu [asta=ru h!umja]ro:.あの人、下駄<sub>を</sub>ズはいている。

p!i]si]marī nu:=[ru] s!itara? 昼なに<sub>を</sub>ズした？

mana] za=[ru bu]ba? いまどこにズいる？

mana=ru kja]ru.いまズ来た。

ハダカ格以外の格語形や活用形においても同様である。

- ・ 格語形の強調形

ututu=a] p!ina[risi=si=ru] ma[si] k!amiru.弟は左手でズ箸を持つ。

na:=nu p!ite:=ci=ru N]go:.ここの畑にズ行くよ。

- ・ 活用形の強調形

buza[ma:] sigutu=nu [ariki=ru kuna]ru.おじさんは仕事があるからズ、来ない。

paNtaqsa=tu amaskuru] jamiki=ru [kunaqta]ru.忙しかったし、頭も 痛かったから、来なかった。  
た。

snu] ha[naki=ru a:] =d<o[a>.きのう食べなかったからあるのだ。

・ gara 形

gara 形のうち、格語形のほうには強調辞 ru がつくが、順序をあらわすとりたて形には強調辞がつかない。このほかのとりたて形に関しては未確認である。

p!inari=gara=ru s!isja]=du[ra.裏返しにゾ着ているよ。裏返しからゾ

### 3. 2 とりたて「は」相当

日本語の「は」に対応するとりたては ja であらわれる。

麻生(2020)は「波照間方言の主題助詞は=(j)a および=ba~=wa である。」とする。=(j)a は日本語の「は」に対応するようだが、ba のほうは対格（あるいはそのとりたて）相当とみられる。

ja が明確にみられるのは以下に示したように a:以外の長母音名詞においてであり、短母音名詞では弱い二重母音であらわれたり、まったくあらわれなかったりする。

・ N おわり名詞

N おわり名詞では、N+ja に渡り音が入って、N=n<ia>になる。

siN[daN=n<ia>] ja:ra[hai]gara [juqka]=ni[ga] skaN.センダンの木は、軟らかいから床には使わない。

k!unu [aN=nia/annia] mi:N=[du busaharu.この網は目が大きい。

s!ipuriN=n<ia>] kabuqja=garaN [busahadaru.冬瓜はカボチャよりも大きい。

mmaN=n<ia>] mo:[nu]=d<o[a>.馬はいないよ。

・ 長母音 a:以外おわり名詞

a:以外の長母音ではそのまま ja がつく。

k!unu e:=ja zo:q[tu]=jas!ita.この絵はすばらしい！

me:=[ja: s!ipaharu] hi:=na=[ru] buqtaru.以前は狭い家に住んでいた。

siNdaN=nu ki:=ja センダンの木は

uibuja=nu skurjaru] hi:=ja ma: jo:ri[da]=d<o[a> ma:.ひいおじいさんが作った家は弱っているよ。

ba]=hi=[nu t!akizo:]=ja mi[cusaharis!i]ta na[haN]=d<o[a>.家の竹竿は、太くて長い。

・ 長母音 a:おわり名詞

長母音 a: おわり名詞では、ja が a: に融合して縮約しているようで、ハダカ形になっているようにみえる。

pa:] ututu=[mu=N] haN. おばあは弟にもくれた。

maqci=[nu] pa: [o:sidaru. 松の葉は青い。

k!unu sa:] aq[cahaN]=d<o[a>. このお茶、熱いよ。

da: muqcja agahadaru. おまえの顔は赤い。

na:] asahadaru. ここは浅いよ。

ha:] ffuha[N]=d<o[a>. あそこは暗いよ。

a:=a であらわれることがあるが、縮約前の語形と思われる。

na:=a] ke:=N [aN]=d<o[a>. ここには井戸もあるよ。

・二重母音おわり名詞

二重母音おわり名詞では ja が融合して縮約しているようで、ハダカ形になっているようにみえる。

a[b<oa>] mo:[nu. お母さんはいない。

・短母音おわり名詞

短母音おわり名詞のばあいは、短母音 a では長音化して a: になるが、それ以外の短母音ではそのあとに a がついて縮約され、1 拍の二重母音であらわれることが多い。

短母音 a おわり名詞では長音化して a: になっている。

bu:zi=nu p!ana:] aga[haN]=d<o[a>. デイゴの花は赤いよ。

agaqtama: ci: muitaha] si bi[rja]=wa:. 赤ちゃんがオッパイを欲しがっている。

spani=nu [k!atamuqta:] p!iko[haN]=d<o[a>. 崖の側は危ない。

k!unu juda: [maNgibaN] buru[nu. この枝は曲げても折れない。

unu za[: amaskuru=N=du] waqsaha[ru. この子どもは頭が悪い。こいつは。

[uwa=N hi=nu k!atamuta: fcahadaru. 豚小屋の近くは臭い。

短母音 i おわり名詞

k!atana=nu] s!ak<i=a> p!ikoha[N]=d<o[a>. 包丁の先はするどいよ。

k!unu [tereb<i=a> umuqsa hi]nu. このテレビはつまらない。

k!unu k<i=a> [sjoq]ta [bustu naranu. この木はなかなか大きくなる。

manabi=a] p!ikuhaqtaN. さっきはあぶなかった。

ba=hi]=gaqc<i=a> [k!una. 私の家には来るな。

maN]taba[ri=bag<i=a> buq]taN. さっきまでは(ここに)いた。

・短母音 u おわり名詞

k!unu] da[g<u=a>] ske:jaqsa[haN.この道具は使いやすい。  
jo[ru p!i:tuŕi=si arugu mun<u>=a] [gohadaru.夜一人で歩くのは怖い。  
]da:=mu=a hunu.あなたにはあげない。対比

・短母音 i おわり名詞

mi:u[s<i=a>] uqtunaq[sahaN]=d<o[a>.メス牛はおとなしい。  
k!unu] muqc<i=a> jara[haN]=d<o[a>.この餅は柔らかい。  
k!utuŕi=a siġu]tu=N=du [paNtaqsaharu.さいきんは仕事が忙しい。  
ke:=nu mizi=a [iqci]N pirisjahadaru.井戸水はいつでも冷たい。

・短母音 o おわり名詞

kj<o=a> asi h!akja]taN.きょうは汗をかいた。  
mo=a] naNborijaq[sahaN.ここは流れやすい。  
ba]=hi=nu mago=a mada siŋahadaru.うちの孫はまだ幼い。人だけ。  
zja[gaim<o=a> aNska] agaN=[n<ia>] ne:nu.ジャガイモはあるけどサツマイモはない。

### 3. 3 とりたて「も」相当

日本語諸方言では名詞の語形のうち、子音のないヲ格やへ格、ハとりたて形などではよく融合がみられるが、とりたて「も」では撥音化してンになる例が大半である。波照間島方言が属する八重山語でも、西表祖納方言ではモとりたて相当に N と強意的なニュアンスのある miN があるが、単語末音の違いによる変化はみられない。竹富島方言も石垣島方言も N であらわれる。

その点で、波照間島方言の以下のような現象は特徴的であるともいえるが、すべて juN からの変化とみれば大きな違いはない。<sup>1</sup>

音声的には、短母音名詞につく mo が撥音化して N になったとみるのが自然かもしれないが、長母音や二重母音(～連母音)、撥音終わり名詞のあとで古形が保存される例が少なからずみられることから、より古いのは(j)uN である可能性がある。そうであれば、この方言に関して、mo に由来するとみられる西表島や竹富島などの N ではなく、(j)uN が N に変化したとみるべきか。

<sup>1</sup> 麻生(2020)では「累加助詞は=(ju)n である。主に=n が実現する。=jun は、柴田(1972)のテキストからのみ見つかっている形式であるため、例が少なく、わからない点が多い。」とする。

・撥音おわりの名詞

juN が古形であるとしたら、この音は撥音のあとにもっとも保たれている。渡り音の n があらわれる。

aN]=n<iu>N [aN]=d<o[a>.網(aN)もあるよ。

kj<o=a > kaci]=nu [susahaki] naN[n<iu>N t!akahadaru.きょうは風が強くて、波(naN)も高い。

k!unu uq[tama: pa:N=n<iu>N pe:sjahaN]=d<o[a>.この子は足(pa:N)も速いよ。

na:] agaN=[n<iu>N aN.ここにサツマイモ(agaN)もあるよ。

s!ikeN=n<iu>N N:da]N=d<o[a>.月(s!ikeN)も出たよ。

・長い母音おわりの名詞

長母音 (i:, e:) 終わりの名詞では j が脱落している。N だけであらわれることもある。

hi:=uN [aN]=d<oa>.家(hi:)もあるよ。

ki:=uN kohadaska] k!an<i=a> [ma]bi koha[da]ru.木 (材木) も固いが、金属 (鉄) はもっと固い。

ke:=uN 井戸も

na:=a] ke:=N [aN]=d<o[a>.ここには井戸もあるよ。

長母音 u:, a: 終わりの名詞では u が脱落して N だけにみえる。

kju:=N aqcaha]sjada=[wa: 今日(kju:)も暑そうだ。

jahaNska baqta jaburisi nu:=N haruN.ひもじいのに、腹をこわして何(nu:)も食べられない。

da:=N [mo=ga ku=ba.あなた(da:)もここに来い。

二重母音終わりの名詞では j が脱落して uN になる。

unu p!itu=a [kui=uN t!akahadaru.あの方は声(kui)も高い。大きい。

ただし、a 終わりの二重母音では N になる。

ab<oa>=N 母(ab<oa>)も

・短母音おわりの名詞

短母音おわりの名詞では N だけがつく。

snu=a k!u!ri=N miq[ta]=na:? きのうはこれを見た?

uri=N kaori[daru.あれも変だ。変わっている。

aqca=N aN]=d<o[a>.あしたもあるよ。

hanu uqtama=N bustu na[rjaN]=do<o[a>.あの子ども大きくなったよ。  
snu=N [arugjaqta]N.きのうも歩いた。  
ba[nu=N] aspuN.私も遊ぶ。  
muga[sī=a [kunu t!usi=N aqtaN.むかしは、来なかった年もあったよ。  
ija:] bagasu [su=a iqci=N sīsahadaru.父がつくる味噌汁はいつも酸っぱい。

### 3. 4 とりたて「ばかり」相当1 gagi

- ・おなじものの集まり+限定

gusiN=[ga]gi numi bi[rja]ru.酒ばかり飲んでいる。自分をいう。  
unu uqtama:] ju=[ga]gi he birjaru.この子は魚ばかり食べている。

- ・動詞の例

k!unu uqtama: he:[ga]gi sibirjaru.この子どもは食べてばかりいる。○ga]sī  
unu p!īt<ua> numi[ga]gi sibirjaru.あの人は飲んでばかりいる。○ga]sī  
unu uqtama: nagi[ga]gi sibirjaru.この子どもは泣いてばかりいる。○ga]sī

- ・極端な例

ja[haq]ta a[gaN]ba[gi] hja[wa.空腹でサツマイモまで食べた。  
kajokomubagi] ha:[N.カヨ子にまであげた。  
unu p!ītu: ba[N]ba[gi] ha:N.あの人は私にまでくれた。  
k!unu uqtama: [ujaNcjuqtubagi] as!ipi bi[rja]ru.この子どもはネズミとまで遊んでいる。

### 3. 5 とりたて「ばかり」相当2 gasī

- ・おなじものの集まり+限定

gusiN=[ga]sī numi bi[rja]ru/numi [bja]ru.酒ばかり飲んでいる。  
ju=[ga]sī he birjaru.魚ばかり食べている。

- ・動詞の例

he:=[ga]sī si birjaru.食べてばかりいる。  
numi=[ga]sī si birjaru.飲んでばかりいる。  
nuffi=[ga]sī si birjaru.寝てばかりいる。  
unu ftar<ī=a> [ai]=ga[sī] si birjaru.あの二人、会ってばかりいる。



### 3. 6 とりたて「から」相当 gara (順序)

波照間方言で時間・空間の出発点をあらわすのは主として gara 格で、gara は動詞や形容詞の原因理由をあらわす語形にもあらわれる点で日本語と類似する。

このおなじ語形がとりたて的な順序の用法をもつ。日本語にもおなじ用法があるが、日本語では格語形と共起せず、カラ形のみであるため、とりたて性が表面化しない。一方で、波照間島方言では宮古語大神方言の kara 形とおなじように、格語形にとりたての gara がくつつきうる<sup>2</sup>。これまでに確認されたのはハダカであらわれる対格(φ形)といくつかある与格相当の格のうち与格 ga と与格 gaqci、それに共格においてである。

以下、格語形+gara の用例のみをあげる。

da=ga=[gara] hiruN. あなたにカラあげる。

[na=ga=gara s!ikiba. ここにカラ置け。

k!unu hi=gaq[ci=gara] Ngi. この家にカラ行け。

k!unu uq[tama=qtu=gara] as!ipiba. この子とカラ遊べ。

### 3. 7 比較 1 gara (N)

比較の助辞は一般にとりたてとしては扱われないが、カラ形の順序の用法が、①格を代行すること、②添意作用を持つこと、③他者の存在を前提にしていること、という、まさにとりたての用法をもっているのと同様に、比較の用法も、①格を代行し、②比較という添意作用を持ち、③比較のための他者の存在が前提にある、という点で、とりたての一角を構成しているといえるだろう。ただし、順序の gara 形とは異なり、日本語と同様に格語形と共起する例は確認されていない。なお、3.6 の順序の gara との関係については検討を要する。

#### ・ gara

k!uri=gara k!uri=N=du muskaqsaha[ru.これよりこれが難しい。

uri=gara k!uri=N=du si: jaqsaha[ru.これよりこれがしやすい。簡単だ。

me=[gara] o[ha] narja=wa.まえより青くなった。

#### ・ garaN

k!an<i=a> [ki:=garaN] Nsahadaru.鉄は木より重い。

k!unu is<i>=a> [k!unu isi=garaN] [karuhadaru.この石はこの石よりも軽い。

uri=garaN [isjagada]ru.これよりも小さい。

maju=garaN [busada]ru.ネコよりも大きい。

pe:=garaN [isjagada]ru.ハエよりも小さい。

<sup>2</sup> 金田・周(2021)

sjama=garaN] isjagadaru.お兄さんよりも（もらったものが）少ない。  
banu=ga[raN isjagada]ru.私よりも小さい。

### 3. 8 比較2 jurika

比較2 jurika も比較1 gara(N)と同様に、とりたて的な用法があることが予測されるが、用例がまだ1例のみなので、今後の調査にまちたい。

pirja]ru su:=jurika [aqte]sjaru su:=N=du [maharu.冷たい汁より温かい汁の方がおいしい。

### 3. 9 ならべ(q)tu

ならべの語形も、ならべたさいごの語形の格の意味が背後に隠れている、つまり格を代行している、という点で、とりたて的な面がないわけではない。また、ならべるということは他者の存在が前提にある。しかし、添意という側面はみられない。とりたての周辺に位置するとみてよいか。

#### ・qtu

na=qtu [ha=na aN]=d<o[a>.このことあそこにあるよ。×moqtu

k!uri=q]tu [k!uri]=nu ftabisi=[na s!iki=ba.これとこれの間に置け。

u[wa=nu] niqku=tu [p!imiza=nu] niqku=a za:=N=[du maha=ba]:? 豚肉と山羊肉は、どっちがおいしいの？

k!uri=qtu k!uri=ba mucu Ngi]=ba.これとこれを持っていけ。

#### ・tu

hana: mmaN=tu p!imiza=N=du] bu.あそこに馬とヤギがいる。

sju:ici]daNdaN=tu [kajoimaima=N=du kja]ru.シュウイチたちとカヨたちが来た。

paNtaqsa=tu amaskuru] jamiki=ru [kunaqta]ru.忙しかったし、頭も痛かったから、来なかった。

ba: t!u[rikjaru] t!a[ku=tu i]ga kasma[N.私がとってきたイカとタコを売った。

niku=[tu gu]bo[N mbus!i]cjara [aku=N] gwa:[biN] NziruN.肉とゴボウを煮たら、アクがたくさん出る。

## 参考文献

- ・麻生玲子 (2020) 「南琉球八重山語波照間方言の文法」(博士論文)
- ・金田章宏 (2020b) 「八重山語波照間島方言について」『シマジマのしまくとぅば 1 危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究』令和元年度 文化庁委託事業報告書 琉球大学島嶼地域科学研究所 (2020.3) pp.143-168
- ・金田章宏・周玥 (2021) 「「とりたて」としての名詞カラ形—南琉球諸語から日本語を考える—」『対照言語学研究』28号 pp.19-39